

ボンジョールノ！

今日から短くても毎日日記をアップしようと思います。

まずは自己紹介。

教育学部学校教育教員養成課程数学教育コースに所属している2年生、
數田美樹（かずた みき）といます。

好きなことは読書で、大学に入ってから夏にはよさこいを踊っています。

一年前から高知大学学生寮であるときわ寮の寮長をしており、どうしたら寮内の生活の質が向上するのかにも関心を持っています。

今回のサマーインターンシップは、防災について考えるボランティアを支援している先生から声を掛けていただき、40日間イタリアで様々な事を学ぶ機会を得ました。将来は地元である大阪には戻らず、高知で小学校の教員をしたいと思っています。

以上が私についてです。

まとめると、数学も国語も英語も全教科をしっかり学んで（生活も!!）子供達に接したいと思っており、日々邁進しています。

イタリアに来てから19日が経ちました。

私がここで学びたいと思って動いているのはイタリアの考え方を理解して伝えてみるということ。

日本での防災について考える活動では、防災袋の中身を考えたり寮の防災を見直したりしていました。イタリアに来る前は大学寮を見学したり、どんな防災活動をしているのかインタビューしてみたいなと考えていました。

しかし来てみて分かった事。

防災を考えるには状況も考え方も違いすぎる。

イタリアは常に町のどこかを修繕しています。

それは、道路であったり、建物であったり。

新しく建てるより、古い建物をリノベーション（修理、復元、改装）しています。

それは木材ではなく、石やれんがで建てられた建物だから。

アスファルトの道より、石畳のガタガタ道が多いから。

人々が新しいものと同じように古いものにも価値を見出していて、それも日本とはかなり違う点なのだろうと思います。

私は、日本に戻った時に「何をどういう風に伝えるのか・色々な視点に立ち物事をシュミレーションする（ゲーミング）」を実践できるようになっていたいと思います。

この19日間で学んだこと

- ・生鮮品（魚、肉、野菜、果物、パン等）は一個あたりの価格ではなく、1kgあたりの価格で販売している事

■日本では生鮮品は大きさを均一にして同じ価格で販売していますが、イタリアでは個人が大きさ、量を調節して購入できます。そのため売り場は大小さまざまな品物が並んでいます。「違っていい」ことがここにも？と思いました。深く考えすぎですか？

- ・博物館、美術館には古いものと新しいものが展示されている事

■ただただ古いものを大切にするだけではなく、今を大切にしているように感じました。今もまた歴史の中の一部であり、昔のものはあるけれど今のものは少ない日本とかなり違う点ではないでしょうか。

- ・サルディーニャはイタリア本土と違う食文化を持っている事

■日本でいう沖縄料理のような感じです。言葉も独自の言葉を持っており（うちなーぐちみたいなもの！）イタリア文化と少し異なった文化であることを知りました。また、私たちがイタリア文化だと思っている文化ってどこの地方の文化なのだろうという疑問も持ちました。同じように、「日本文化」ってどこの文化のことなのだろう？京都？

- ・文化を守るという事

■サルディーニャは紀元前8世紀前後に高い建築技術を持ったエトルリア人が住んでいたといわれ、その建築物「ヌラーゲ」が島の各地に残っています。サルディーニャの人々はそのヌラーゲをすごく誇りに思っているようで、色々な人々から歴史や文化を聞くときに説明が出てきます。その後ローマ帝国の支配下時代に入りカタコンベ（キリスト教迫害から逃れるために作った地下室）が作られ、ローマ帝国がキリスト教を国教にしたため、そのカタコンベの上に教会が建てられたことなど、教科書で学んだ世界史の流れを見て感じる事ができました。次の時代のスペインとの密接なつながりも聞き（アラゴン王国時代）ここに書きたいのですが、長くなりすぎるので次回にまわします。サルディーニャで出会った人々は長い夕食の時間（私たちの歓迎会だからかもしれませんが…2時間ぐらい）様々な事について語り合っていました。

歴史（文化）の伝達って実は意外と身近にあるのかな、と思いました。

まだまだ他にも気付いたり、感動したりしたことがたくさんあるので、少しずつ書いていこうと思います。

今度はもう少し短めで。

MIKI KAZUTA (2013/09/02)